

秋 ベストビュールートから北アの盟主へ
天狗原～中岳～槍ヶ岳

実施日 2017年9月28日(木)～30日(土)
 天候 9/28▲/曇 9/29●/☀ 9/30☀
 リーダー 涌井 良明
 参加者 涌井良明、石附智江、中村友子、宇野輝代、徳山敬子、小名秀鋭、宮崎敏男 計7名
 費用 JR14,060円(東京起算) 700円
 2,900円 3,350円 宿泊19,600円 合計37,260円
 タイム 9/28 長野(8:06～25)上高地BT(11:15～30)槍沢ロッヂ(15:40)
 9/29 槍沢ロッヂ(5:35)ババ平(8:55)天狗原分岐(7:30～40)天狗池(8:30～55)休憩2600(9:20～25)稜線直下(11:10～27)昼食中岳(12:37～45)大喰岳(13:35～50)槍ヶ岳山荘(14:30～15:10)山頂(15:45～15:40)槍ヶ岳山荘(16:10)
 9/30 槍ヶ岳山荘(4:46)殺生H分岐(5:21)天狗原分岐(6:30～45)槍沢ロッヂ(8:20～35)横尾(9:50～10:00)徳沢(10:50～11:20)昼食明神(12:00～10)河童橋(12:50～13:00)上高地BT(13:00)沢渡(13:30～15:20)新島々(15:50～16:04)松本駅(16:34～17:08)

9 / 2 8 家を出る時は土砂降りの雨、泊りでなければ当然中止だが、明日明後日は安定した好天が見込まれるため傘からはみ出るザックを濡らして駅に急ぐ。長野駅で全員合流、やはり雨の東口から上高地行特急せせらぎ号に乗る。

上高地に着く頃には雨も殆ど上がって、今日も相変わらず賑わいである。

11時半、林道歩きが始まる、天気もあがるのだろう、明神を過ぎると観光客も減ってくる。徳沢、横尾と通過ポイント



過ぎ、梓川から槍沢と名を変えた流れを聞きながら進む。槍沢に流れ込む支沢と、一ノ俣、二ノ俣と橋を過ぎ

て、やや傾斜の増した登りを進むと、槍沢ロッヂが見えた。4時間10分で来た!

運良く個室に入れてもらえ、風呂にも入れて快適な初日となった。

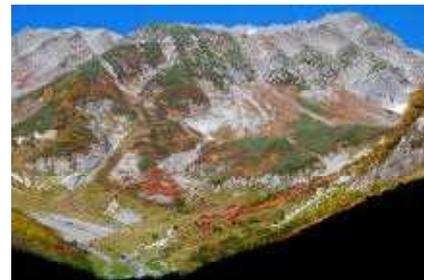
9 / 2 9 早々に食堂前に陣取って朝食を待って一番で済ます。

完全に明け切らないなか、槍沢ロッヂを後にする。

山道らしくなくなった登りを行く、槍見からは木々の枝を透かして槍穂がちょこっと見える。頭上は青空が広がり、天狗池の逆さ槍に期待していたのだが...



ババ平のテン場を過ぎ、登るにつれ森林限界も越えて、視界も広くなり、山肌も秋らしい彩りを見せ始めてくれる。



水俣乗越分岐、大曲りと槍沢の谷筋もぐっと広さも増してカール地形らしくなり、未だに残る雪渓を見ることが

もできた。

天狗原分岐に着く頃になると、前方に立ちはだかる槍の稜線は寒気の吹き出しの影響か? 岐阜県側から黒いガスがまとわりつき始め、イヤな感じ!

傾斜もきつくなって、天狗原分岐の標柱に着いて一息。

直進する槍ヶ岳への道と分かれて天狗原へ向う。モレーン状の岩石帯を2回程通過するが、真っ盛りの秋色のコントラストが美しい。灌木の小尾根を乗越して

進むと下に小さな池が見えてくる、天狗池だ。この頃には槍沢カール上部まで黒っぽいガスが下りてきており、池に写る槍穂は見ることは出来なかった。



目的の一つただただに、ザンネン指数も跳ね上がる。でも、代わりとするには申し訳ないくらいに絶好調の周辺の紅葉の美しさや対面に佇むイケメンの常念岳を始めとする眺望に慰められた。

ていく、ホー
ルド・ス
タン
豊
富
で
鎖
も
多
細
か
い
箇
所
に
は
ボ
ルト
や
鉄
杭
も
打
た
れ
て
お
り
、
安
心
し
て
登
れ
る。



山頂への梯子の下では下りてきた木風舎のガイドツアーグループと行き違う、TVで見たような気も??橋谷さんだったのかなあ。いずれにしてもいつも感じるのは山中でのガイド氏の身のこなしには何とも言えずにシュッ!とした安定感にじみ出ている流石感がうらやましい... 山頂への長めの梯子を登って3180m日本で5番目に高い頂に立つ。

何回か来たが今日の天気がイチバンだ、



本当にぐ
るりと北
アの大展
望が思う
がままに
展開して
いる。天
上沢には
まさにピ

ラミッドの様な影槍もクッキリ、もちろん穂高山群、鹿島槍、劔岳、立山、水晶岳など... 初めて立ったメンバーにはこれ以上ない良い条件で大変ラッキーでヨカッタね! 化粧直しで綺麗に飾られ鎮座する山頂の祠と一緒に写真に納まってから、下山用の梯子から下山開始。

登り以上に慎重に下るが登り同様に順調に下り、肩に降り立つ。ハイタッチでお互いをねぎらって10時間に及んだ今日の行動を無事に完了した。

まずはビールで乾杯~歓談~夕食なって、さて食後も... のもくろみも疲れには勝てず、寒さも増してきたため早々に布団を被ることになってしまった。

夜半頃? 薄雲の空に月も見えたが風の音もうなっていた。

9/30 4時起床、長い下りになるので朝食は弁当にしてもらい、出発前に少し食べてから小屋を後にヘッドランプの灯で上高地へ向けて下山を始める。

小屋前から直ぐに下りになり槍沢カールに向かって降りていく。ジグザグの道は当然ながらしっかりしているのでゆっくりながら順調に歩く。

前方の常念岳左方向の明るさが増して

くると、しばらくして日の出を見る、丁度上下に雲の帯が切れた間に登る朝日を見ることが出来た。振り返ると穂先も紅く染まりつつあった。山頂で日の出を待った登山者も大勢いたよう



だ。南アの奥には富士の姿もクッキリ、150kmほど離れているが、さすが秋の天気だ。

坊主の岩小屋を過ぎ、昨日の分かれた天狗原分岐で一息、槍沢ロッジで預けた



お風呂セット(着替)を回収して道も徐々に広くなって来る。しかし、さすが秋真っ盛りで好天の土曜日だ、行違いの登山者のなんと多いことよ。

今夜泊らなくてヨカッタ!

更に下って横尾へ、ここも山荘前広場は人の群れ、ほぼ全員涸沢へ向かうのだろう。他人事ながら今夜の小屋の混雑振りを想像しただけで...

後は徳沢で昼食にして上高地へ。

河童橋で快晴の岳沢~穂高



を眺めてから、BTから車で沢渡温泉(梓湖の湯)で汗を流して再び車で新島々~松本駅、始発のSあずさで帰路についた。

絶好調の槍沢の紅葉、快晴の槍山頂など、北アの盟主たる秋の槍ヶ岳を巡る山旅で、天狗池はちょっと心残りもあったが、北アの初めて辿ったコースで、眺望も素晴らしくやっぱり北アの人気の高さを再認識したところもあった。

今年は最初で最後の北ア、それにしてもトレーニング不足がたたって、2・3日目は脚に溜まった疲労でイヤッ辛い歩きだった。メンバー諸氏に煽られながらの無事完走、何とかかっこがついたと思ってます。皆さんありがとうございました! 北ア、また一緒に行けるとイデスネ!?

(記&写真・涌井 良明)